

令和元年度（2019年度）第1回ニセコ町総合教育会議 議事録

日 時 令和2年（2020年）2月26日（水曜日）
午後3時00分開会～午後5時30分閉会

場 所 ニセコ町総合体育館会議室

出席者 片山健也町長、菊地 博教育長、下田伸一教育長職務代理者、
越湖明美委員、萬谷政博委員、大橋理絵委員

会議概要 以下の通り

1 開会、2 町長挨拶

片山町長：戦後の過去の歴史から、首長が教育に介入するのはおかしいということによって教育委員会制度ができました。住民のみなさんから選ばれた代表が、教育全般の経営責任を負うということによって合議制の教育委員会ができて今日に至っている状況です。その中で、首長の中でも二十年以上前から議論がありまして、選挙で選ばれた首長が、教育に全く口を挟めない社会で本当に良いのかということもあり、しかし介入しすぎるのもまた本来の教育委員会制度が崩壊するという中で、教育総合会議ができました。

基本的には、首長も自分の政策について教育委員のみなさんや教育委員会にご理解をいただいて、その中で教育委員会が独立した機関として判断していただいきたいということで、唯一正式に教育長や教育委員のみなさんに意見を言える場がニセコ町総合教育会議だけであります。

町の行政の中で、町長が教育委員会がやっていることに対してある程度の差配ができるのは予算に関してのみです。予算の調整権は町にあります。教育委員会議であがってきた予算案を一方向的に町行政の係が削るということは基本的にはできません。あくまでも変更した場合は、教育委員会のご理解を得て初めて予算案を編成するということになっております。

300万円までは教育長の責任で全てできるということです。事務事業も含めて1千万円までは副町長の決裁で進めていて、それ以上の大きな事業は町長ですし、不在の場合は副町長が代決するという流れになっていることをご承知おきいただければと思います。

北海道教育委員会や文科省のある程度の合意形成はある程度必要な場合もありますが、町教育委員会の方針によって教育政策がある程度変更できると考えていますので、教育委員のみなさんの思いをニセコ町の教育に活かしていただければありがたいと思っております。

本日は宜しく申し上げます。

3 議事

片山町長が議長として議事を進行。

(1) 令和2年度ニセコ町予算概要についての報告（町長）

片山町長から、令和2年度ニセコ町予算案の概要について説明。

町長：前年からみると教育費は5,100万円の増額となっています。これには施設整備も含んでいます。学校関係や幼児センターの備品類を計上しています。その中で、有島記念館の改修は、エネルギーのことをもう少し抜本的に熟度を上げて予算付けをするということで、今回は見送っています。総合体育館の改修については、新築も含めて機能診断をすることの予算でしたが、もう少し熟度を高めるという理由で先送りとなりました。幼児センターは、事務室を仕切りたいという要望でしたが、保育士全体の合意形成かということがみえないのと、完全に仕切るとなった場合の弊害も含めて全体の意思統一が必要だということで先送りにしました。

私たちの町は基本的に、前例縦割り主義を廃止し、タブーのない組織にしようということで、情報公開も含めてまちづくりを進めてきたという思いがありますので、率直な意見を出す中で、少しでも子どもたちのためになる教育ができればいいと思っています。

(2) 教育全般についての意見交換（町長提案事項）

① 新型肺炎（新型コロナウイルス）対策について

本件については、これまで3度ほど緊急の課長会議を開催してきました。まだニセコ町内は発生していませんが、発生することも予想されることもふまえて、予防対策も含めて、2月26日付けで「新型コロナウイルス拡大に伴う危機管理対策本部会議」を設置いたしました。

今後いろいろな対応をこの場で行っていきたいと思いますので、ご協力をお願いしたい。

② ニセコ高校の将来構想について

地域間で生徒の奪い合いをしても仕方がないと思っています。このエリアには高校が6校あって、農業高校は倶知安農業高校という専門の学校があります。そのうえで、あえてニセコに農業コースは本当に必要なのかということで、これまでも議論をお願いしてきました。学科転換を含めて大胆な将来構想をするべきではないかということが私の思いですので、ご検討をお願いしたいというところです。

・ニセコ高校の将来的な在り方の検討

教育委員会において今後検討したいということですので、教育委員会としての議論を注視したいと思いますので、検討の加速化をお願いしたいと考えています。

・緑地観光科の限界

緑地観光科が生徒や保護者にとって魅力があるものかという点、今はそうでもないと感じます。例えばニセコは観光地なので、国際観光科やグローバル教育にシフトする、英語教育に特化する、あるいはバカロレアや特認性で教育をクラスに分けて、きちんとした英語教育の中でグローバル人材を育てる等、いろいろな可能性があるのではないかと考えていますので、ご検討をお願いしたいと思います。

・視察（白馬高校）の活用

長野県白馬高校を視察していただきましたが、白馬高校は生徒数がたりなくてどうしようかという時に、地道な努力によって観光の科を設けて抜本的な改革を行って、全国から多くの生徒が来ているというような状況ですので、追随することはないですが参考にしつつ検討いただければと思います。

・生徒の全国募集

全国に募集を広げるべきではないかと考えています。今の中続けるのであれば、少しでも魅力化すると同時に、多くのみなさんにニセコ高校の価値をわかっていただければと考えています。

以前の話題として寮の問題もありまして、寮についてはこれまで国の補助金が全くありませんでした。当時、過疎法という法律の中に寮の仕組みがないので、町立高校については国も道も補助金が一切ないという状況だったので、それについては過疎債を認めてもらいました。イメージとしては、国の承認がもらえると、元利償還金の70%を国が負担するという制度になります。

その時の法律改正で、火葬場と町立高校を過疎債対象としてもらうことになりまして、例えば寮が必要ということになれば、国から7割の応援をもらって3割を自己負担して寮を作ることになります。構想の中で、寮が必要となれば即時対応しますので、早めにお知らせいただければ資金の工面も行いたいと思います。

文科省の仕組みで、30万円支払うと大都市圏（東京・名古屋・大阪）で宣伝が可能な仕組みがあるということなので、こういった制度も将来においてはご活用いただければありがたいと思います。もし、来年度実施するというのであれば、6月議会の補正予算を組んで直ちに動くことは可能です。

③ ニセコ高校の入学数について

来年度の入学者数がとって少なくて残念ですが、町としてやってほしいことや連携したいということがあれば、遠慮なく言っていただければありがたい。何か足かせになっていることがあれば、町としても改革をしたいと考えております。

教育長：高校に関しては、教育委員の協力も得ながら、将来的なあり方や

科のあり方については、高校の先生たちとグループワークも通しながら検討を始めたところで、それを受けて、具体的に高校の先生と話をする場を設けたりして話をしているところです。

今回の入学者数が減った背景も考えていますが、従来の募集の仕方だけでは集まってこないのが現状で、中学生や家庭に対する発信をもう少し工夫しなければいけないということで、高校の先生とも話をしているところです。例えば、YouTubeの活用やインターネットの利用、ポスター一つとっても今は自前で作っていますが、プロに頼むことによってもっとインパクトのあるポスターになるのではという意見もあって、そもそもの募集のあり方についても、今の時代に合うようなインパクトのあるものにしていかなければ、なかなか目にはつかないのではないかと考えているところです。

白馬高校については教育委員でも視察をしてきたところですが、生徒を募集するにあたっては、寮のあり方については一番の検討するところだと思います。今回、生徒が少なかったのはその影響が大きかったとも考えていますので、各委員からもさらに意見をいただきながら進めていかなければならないと思っています。

全国募集をするとなると、方針を出して、道教委への申請手続きが必要で、そのうえでの大都市圏での宣伝ということになります。

町長：寮が土日使えないということを知りましたが、遠くから来ている生徒は帰らなければいけないということになるので、どうしてそうなったのか理解ができません。何年前かに話が出た時は、親元に帰すのはおかしいので、土日も開いてくれる制度を作ってほしいということで、食事は出ませんが土日は開いていた記憶がありますが違いますか。

教育長：これまでは土日も開いていて、月に二回は閉寮日にして帰していましたが、今回、毎週閉寮するという方針が出されました。そこにも理由がありましたが、そこを変えなければということで教育委員会でも話をしました。これまでは学校の管理として寮をもって、学校の責任において運営していたところですが、生徒指導上の問題や先生たちの勤務のこと等で、学校の方も毎週閉寮にふみ切らざるを得ないというところになっているので、それであれば、そもそもの寮の管理を学校管理ではなく委託等も考えていこうかということで話しているところです。

町長：そんな大事なことを学校が一方的に決めて、実際、遠くに住んでいれば行かせられません。土日を開けるための方法として、委託や人を雇うことも考えられるので、迅速に対応しなければ応募する人もできないと思います。

ニセコ町規模で高校を維持するための経費について、全国的な標準数値がありまして、それを計算した中で地方交付税が来ることになります

が、それはあくまでも定員で管理されているので、そうなるとニセコ町では持ち出しがなくニセコ高校の運営ができるという仕組みになっています。

生徒や先生が減るとその分減りますので持ち出しがあるということになって、定員どおりになると国からも一定程度来て町の負担は少なく維持できますが、減れば減るほどかなり大きなお金を学校運営のために持ち出す仕組みになっています。

教育長：財政にも確認したところですが、地方交付税を受けるにあたっては4年生に進級するというのも大きいようで、進級する生徒がいると1学級増えるので、生徒数にすると15人分くらいの値があるということです。今後4年生に進級する生徒が続きそうで、志を持った生徒が入学していることも事実なので、決して魅力がない高校ではないと思います。そのような状況の中で、一学年の人数もある程度まとまった人数が入れば、経営上も安定してくると思います。そのためには、生徒募集を全国に広げるというあたりは踏み出す時期だと思います。

町長：募集しても定員を維持することが難しいということであれば、高校自体を全く異質なものに転換することもあり得ると思います。高校という機能を残しつつ、ニセコ町は観光の雇用の場があるので、観光の国際人材を育成することを目的とするとか、グローバル教育にシフトして専門的な高校にすることもあり得るのかもしれないので、是非そのようなことも含めて多角的な検討を賜れば良いと思います。

下田委員：ニセコ高校の今後についてというテーマで、いろんなテーブルで議論をしていて、教育委員と高校の先生とワークショップをしたり、昨日も白馬高校から先生2名が来られて懇談をしたりして意見を出し合っています。そのような場ではいろんな意見は出ますが、なかなか進んでいない難しさがあります。教育委員は常勤ではないのでそのテーブルで意見を言うことはできますが、主体性をもって推進していくということになると、専任の人が進めていかなければいけないと思います。先日もいろいろな話が出まして、長期的・短期的な課題やまとまりも一定程度出てきているのかと思いますが、今後の進め方や手法が難しく感じています。この沿線での奪い合いに未来はないので、全国公募をととなると寮の整備が必要、しかし、寮は閉寮の方向で検討されていて、実はその話を聞いたのも昨年末の予算の会議で驚きましたが、その募集の仕方なら来られない生徒はいると思いますし、その結果が今回の一桁になっているのではないかというのが率直な感想です。寮の整備も相当な覚悟がいると思いますが、管理を学校側に任せていたのではこれ以上先はないと思います。

越湖委員：一年前の話をしたときに、ニセコ高校の隣にインターナシヨナ

ルスクールがあって自然に行き来ができる環境の中であれば、授業で取り組むのは大変でも、自然な環境の中で耳に入ることによって、少しでもレベルアップできればと話をしたと思います。閉寮のことは私も驚いたし、父兄としては入学させるのは躊躇すると思いました。寮を作るとしたら7割国から補助があるという話なので、まず枠を用意するためには、自信をもって人材を確保できるような魅力を伝えられれば、子ども達も集まってきて、寮も新しくなれば人は新しいところに入りたくなるので、その辺りを皮切りに魅力的な部分も作り上げていかなければと思います。

ニセコ町は全国的にも知名度が高いので、そこにあるニセコ高校ですべて、就職にもつながるということをPRできれば人も集まってくると思います。

萬谷委員：ニセコ高校に行って将来どうするのかという話を周りから聞きます。OBで町内でも活躍している方はたくさんいるので、その方たちの力も借りて、卒業後の進路についても広くPRしてもらったら良いと思います。実際に、意外とニセコ高校を卒業した後のことについてはあまり知られていないと思うので、町民以外でも子どもや親に知らせる機会があれば良いと思います。

大橋委員：PRや広告も大事だと思いますが、時代のニーズに合わせて、本当に高校を盛り上げていくためには抜本的に大きく変える必要があると思っています。それには国際化がキーワードになってくると思っています。ただその覚悟が町にあるのかということと、誰がそれを率先して行動していくのか、先生たちにそこまでの力があるのかということもわかりませんし、本当に覚悟をもって動ける人が必要だと思います。先日の保護者アンケートでも、卒業生が全員英検1級をとれるようなレベルだったら入学させたいという意見もあったので、英語に特化するということであればそのくらいを目指すくらいの意気込みが必要だと思います。

そのようなことが全国へのアピール材料にもなるとは思っていますが、実際は難しいことだと思っています。

町長：学科転換をするのは難しくありませんよね。

教育長：町立高校なので教育委員会で方針を立てて、北海道に申請をすることになります。道立高校であれば難しいところですが、町立高校なのでこちらに主体性があるということです。

町長：以前にハイブリット構想を描いた時代とは背景が違うと思います。ニセコにはこれだけ良いフィールドがあって、産業人材を育てる土壌があって、インターナショナルスクールがあってということであれば、学科転換をして、2～3年かけて徐々に完全なものにしていくのも必要だと思います。

教育委員会の中で議論をするということで今まで返答がきているので、テーブルを教育委員会で設けていただければ参加しますし、まちづくり全般のことなので町としてやることだということになれば、町で引き取らせていただいてニセコ高校の将来的なあり方ということで、例えば大学との連携や事業者の方の応援も得ながら、いくつかのテーブルを囲みながらできる仕組みを作っていくとか、どこかで動き出さないと次のステージには行かないという気はします。大きなプロジェクトだと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

寮が必要ということであればできる環境になっていますし、あらかじめ言っていただければ、補助金等を利用して町の負担も少なくできると思いますし、過疎債を使っても可能となりますので、寮が足かせとなっているのであれば整備をする構想に基づいてやれば良いと思います。全体構想をどうするのか、現状のコースを守ることで寮が埋まるほど人が来るのか、寮だけの問題かということもあるので、魅力化の仕組みと合わせて検討が必要かと思います。

下田委員：希望ヶ丘寮が現在ありますので、そこがあふれて仕方がないということになってからで良いと思います。今の状況を変えずに全国募集をすると、どのくらいになるのかという検証もされていないと思います。

寮の運営で閉寮は足かせになっていると思います。学校側で管理させるのも限界があると思います。寮の子は国際的リゾートニセコの高校に通いながら環境に触れ合えていません。通っている生徒はアルバイトに行けますが寮の子はできません。地域の企業にすれば労働力は求められていますし、高校時代から働いてくれていてそのまま就職してくれるような交流もできるので、もったいないと思います。せっかく全国から来ても、高校と寮の往復しか活動範囲がないのであれば、資源を活かしてないと思います。

町長：高校生のアルバイトはできますか。

教育長：アルバイトは届け出により認めていますが、寮生については認めていません。労働力も必要となりますが、高校生が社会に巣立っていく前の時期で、アルバイトによって力が身についていくと思うので、そこも考え直さなければいけないと思います。

町長：寮生にアルバイトを認めない理由は何ですか。

教育長：アルバイトとなると放課後になるので、食事や学習時間等の生活の時間帯がバラバラになってしまうこと等の管理上の問題です。そこから根本的に見直して、ある程度自分で自由に管理しながら生活をするというスタイルにしないと、アルバイトまで認めるということにはならないかと思います。ただ、これからは働くことによっていろんなことを覚えていくという考え方は大事だと思います。寮そのものの考え方を変え

ていかなければいけないと思います。男女が一緒の寮というのも学校とすれば心配な部分もあるので土日は閉寮ということになっています。

女子寮の新築も考えなければとも思います。

町長：土日に管理をする人がいて管理ができれば問題ないと思います。

教育長：ただ、キャパからいうと、全国募集をすれば30人定員は少ないと思います。

町長：人が集まっていないのにキャパが少ないというのは理解できません。募集しなければ人数はわからないので、その人数だけ入れる仕組みの募集の仕方はできませんか。

教育長：であれば、町内も含めた道内では見込めないと思います。ある程度の人数を確保するというのであれば、寮生7割、町内・通学生3割くらいのイメージでなければ、これからの子どもの数を考えると、寮生を増やさないと子どもは集まらないと思います。

下田委員：例えば全国公募にして一学年10名だったとして、今寮は空いている状態だと思うので、そこが埋まっても定員には程遠いというところだと思いますが、まずはそこからかと思えます。

町長：推薦入学制度を設けている高校が多いです。例えば寮の数が現状で埋めたいということであれば、そこまでを推薦枠とするということもあると思います。

教育長：ニセコ高校は学力検査がないので、ほぼ決定になります。

町長：推薦は公立の試験よりずっと早く決まると思っていますので、学力試験がないのであれば逆に推薦枠を広げて、一定人数が来たらそこで終わるようなかたちで、少なくとも寮100%運営をするなどいろんなやり方があると思います。

越湖委員：魅力的な学校に結び付けることで人が集まると思うので、緑地観光科で良いことをやっていることもわかりますが、グローバル教育のようなことを前面に出すようなことで英語学も力を入れてやっていくということもスタートラインにしてやっていくことで、行く行くは寮も大きくするという事に繋がっていくと思います。

教育長：全国募集をしてどれだけ集まるかはわかりませんが、2年前に40人集まった時に寮が9割程度埋まって、その次の年にどうするかということになった時に寮の拡張ということにならなかったのも、下宿の可能性を考えました。しかし、町内に下宿をしてくれる方がいなかったのも、寮の拡張しかないということになりました。それ以来人数が減って今は空いているので、来年全国募集をしてもある程度は受け入れられると思いますが、その先を考えると、寮の整備と全国にアピールする魅力化は同時進行で進めない、長続きはしないかと思えます。

町長：寮が先か後かという課題があって、これまでも解決しないできてい

と思うので、どこかで踏み出さないと変わらないですし、是非そのあたりの議論を進めてほしいと思います。

下田委員：このまま進まずに来年も同じ話をしていたら町長部局でということですが、次のステップとして、町長部局と話すことになりますか。

町長：例えば海士町は、外の人たちを巻き込みながら変革していったこともあるので、ニセコ高校のあり方についてはビッグプロジェクトとして、教育委員会での合意形成のもとで、町でテーブルをもって主体的に進めてほしいということであれば、町として先進事例や文科省からの情報も得ながら動きたいと思っています。教育委員会の所管するところに手を付けるわけにはいかないの、夏に大学のセミナー等でニセコ高校を使ってくださいと言いたいです、教育委員会のみなさんの考えもあるので踏み込んではいませんが、ある程度そのようなところもきっかけとして、ニセコ高校に新たな価値が生まれて、成長変革していく場合もあると思います。そこの許容範囲を認めていただいて、町でやっても良いということであれば動きたいと思っています。

下田委員：教育委員会で話しますが、一定程度の結論が出て進んでいかないという思いがあります。質か量か、誰のためのという話にもなっていて、行き詰まり感があります。専任特任のキーマンが必要なのかと思っています。

越湖委員：寮の体制を変えるのが良いという意見も出ているので、そこは高校管理から業者をお願いするという事で具体化ができると思うし、ポスターも業者に頼んで今に合う魅力的なものを作ってもらおうというのもできると思います。

町長：土日寮を開けることによる弊害はありますか。

教育長：ないと思います。

町長：町の近くにセミナーハウスの要望が多くて、今は地域のセンターを紹介していろんな施設を有効活用していますが、多面的な活用をする施設というのは前例がないわけではなくて、いろんなやり方があると思います。現状を打開するために、例えば土日を開けるとか改善できることはあると思います。現場の声も大事だと思いますが、今の価値観から抜けきらない話をしていてもだめだと思います。割り切りが必要で、どこかですみわけをしていかないといけないと思います。

④ 公営塾について

スタートにつきましては、豊後高田のイメージとしては、子どもたちの居場所をつくり、授業についていけない等で孤立する子どもたちを救おうということで聞いていますので、できるだけ気楽に参加できる楽しい場所を作っていただければと思っています。

町内に私塾もあって将来的にはいくつかの公営塾もあって、その中で選択ができて、行き場所がない子どもがいたらほっとする場所があって、その中で子どもたちがそれぞれの個性を生かして伸びていくような多様性があるというようなイメージなので、多様な価値観が入れるような公営塾としてスタートいただければと思います。

下田委員：場所のイメージはありますか。

町長：総合体育館や元の藤本薬局で、気楽におやつを出したりして子どもの居場所になればと思いますが、いろんな可能性があると思います。

教育長：総合体育館や町民センターを考えています。

町長：新庁舎ができた時に、大き目で3つに仕切れる会議室や小さい部屋もいくつかできますので、子どもたちの利用も考えられます。

教育長：総合体育館は放課後子ども教室の利用になります。

町長：庁舎ができるといういろんな利用ができると思いますが、それまでが厳しいかもしれません。今、綺羅街道で空き店舗が4つくらいあるので、借りることはできると思います。

⑤ ニセコ自然を生かした教育の実践について

ニセコは自然環境が豊かなので、環境を活かした森の学校や森の幼稚園のような事業が長野県を中心に進んでいるので、そのような教育にも配慮いただければと思います。指導者も、地域おこし協力隊等いろんな方がいますので、経験豊富な人材を活用して、多少の先生たちのご理解を得ながらご検討いただければと思います。

教育長：昨年お願いした先生に、先生方にお話をしてもらえたらという構想はあります。

越湖委員：講座を聞きに行きましたが、中で取り上げていた内容がニセコフットパス協会で行った時の内容と重なる部分もあったので、子どもたちに向けてのフットパスを企画しても良いと思いますし、放課後子ども教室の中で公園に行って活動するというのもやっているのでも、引き続きやっていこうとは思っています。

⑥ 各学校施設の有効活用について

近藤小学校では学校開放で、地域のみなさんが相当利用されています。

高校についても、地域のみなさんやいろんな団体が活用できるような、学校が学校としての限定でなく地域に開かれた学校として動けるということも検討いただければと思います。ニセコ高校の体育館については、総合体育館に各スポーツ団体が申し込んでも利用できないという実情があって、第二の体育館として利用するという形で改修した施設なので、是非使いやすい施設になるようお願いしたいと思っています。

町長：現状はあまり利用ないと聞いています。

教育長：あまり使われていませんが、夜の開放もできるようになっています。

規則も改正して曜日や時間も拡大しました。

町長：専属でどこかの協会が使うのは可能ですか。このことは各連盟に伝わっていますか。当初、断られたということを知ったので。

学校教育課長：断ったということは聞いていませんが、要望がないと聞いています。

町長：総合体育館の一般開放も昔よりは減って、利用が多いのでなかなか予約がとれないと聞きました。

町民学習課長：余裕がないことはたしかですが、もう少し弾力的に使えるとしたら、フットサルが使えるようになると固定でも使えるので、高校の部活以外の時間も利用できて新しいスポーツ部門も入ってこれれると思います。

町長：一般開放は週2回ですか。

町民学習課長：水曜日と土曜日です。

町長：ニセコ高校の体育館は良い施設だと思うので利用していただきたい。学校施設が学校だけに使われるのではなく、せっかくの施設をみんなで使うことによって学校への愛着がうまれているので、とても重要なことだと思います。京都では地域のみなさんが子どもたちを見守る体制をやっていることだと思います。これまでの従前の教育が、次のステージにいかないともったいないと思います。

教育長：放課後子ども教室はいろんな工夫をしていただいているので、子どもたちの作品作り等も手掛けていて、作ったものをそこに置いておきたいということもあります。そうすると、固定した場所の方が今の放課後子ども教室の内容とすれば使い勝手が良いとは思いますが。

町長：学校の有効活用をお願いしたいと思います。

⑦ 給食センターの食材について

現在、食材をニセコ町産にシフトしていて、将来的なイメージとして、できるだけ減農薬にしていますが、さらにオーガニック系に踏み込みたいと考えています。アレルギー食もやっていますが、これからそのような子ども達が増えていく傾向にあると思うので、仕組みづくりを教育委員会でご検討いただければと思います。

町長：現在は減農薬系と使っていますよね。

学校給食センター長：地元の農家さんから直接買っているのは低農薬や減農薬ですが、地元の農家さんでも誰でも入れてくれるわけではなく、歴代センター長が知り合いの農家さんをお願いをしてやってもらっているという経過があります。理由としては、数量も少ない中で納品日

を指定するとなると手間もかかるので、今協力している農家さんは大丈夫ですが、あまり喜んでやってくれる農家さんがいないということもあります。また、地元の商店に頼むと市場から仕入れるので、そこまで減農薬の指定はできません。やるとすれば地元の業者さんに直接指定をお願いすることになると思います。安定的に日にちを指定して供給できる体制がとれる農家さんでないと無理なので、ある程度見極めながらやっていかなければいけないと思います。

(3) 教育全般についての意見交換（その他）

下田委員：サッカー少年団は小学校時代は活動も活発に行われていますが、中学校にいった時のお願いが毎年保護者からの懸案であります。部活動がないので署名活動をしますが、仕組みとしては中学校で部活を増やすのは現実的ではないと思っています。サッカーをやりたい子は、町外のクラブチームに行っている実態もあって、保護者の負担もあるので、家庭的に無理という子はあきらめているような部分もあります。そのようなことから、部活動とまではいかななくても、せっかく続けてきたスポーツを体験できる機会が提供できないかと思っていて、ニセコ町のサッカー協会として中学生向けに体験会のようなことをやって、そこでニセコ高校の体育館も活用させていただければと思って動いています。しかし、体育館の中でボールを蹴るということについては環境整備が必要なので、その辺の予算をお願いしたいです。

町長：現実的に中学校は使えないですか。

下田委員：中学校は既存の部活でいっぱい総合体育館も混んでいる状態です。昼間は中学校の部活も、総合体育館を使っています。

町長：高校は部活がありますか。

教育長：高校の部活は夏くらいまでです。

下田委員：夏は外でできるので良いですが、冬の利用が課題だと思います。中学校にサッカー部を作ってほしいという署名活動は何年もやっていますが、無理とのことです。

町長：先生の手当てができないということですか。

教育長：今ある部活に、新しく部を加えることは学校の体制では難しいということです。

町長：例えば民間の人が指導者になるということは可能ですか。

教育長：人がいれば、いろんな制度によって可能かとは思いますが。

下田委員：まずはその需要があるのかという問題もあるので、がっちりしたものを最初からということではなく、中学生になって今までそのような機会を提供できていなかったの、気軽に体を動かせるような感じでできればと思います。

町長：高校の体育館を使用する場合は、ネットを張る必要がありますか。

町民学習課長：有効に使うためには、フットサルの設備ができるとかなり柔軟的に使えることと、中学校の部活もいくつかあって、中学校の体育館と総合体育館とですみ分けをしているので入ってくる余地がない状態です。そのような中、ボールを蹴ってもネットを張って壁に当たらないような方策を考えると、かなり柔軟的な動きになると思います。その前に実態の把握をするということなので、意向が固まれば踏み込んでもらえばと思います。

町長：ニセコ高校の体育館はネットを張れる設計になっていますか。

町民学習課長：ネットを緩く張って、最低でも壁に当たらないようにすれば可能だと思います。本式の試合となれば別ですが、サッカーを楽しむという程度であれば十分かとは思いますが。

越湖委員：近藤小学校のクリスマスコンサートが長年やっていて定例になっているように、高校も音楽活動等で人が出入りすると愛着もわくということもあるので、スポーツだけじゃなく音楽でも使えることがあると良いと思います。

萬谷委員：子ども達にもっと関わっていきたいと思います。

大橋委員：公営塾の講師の先生はボランティアですか。

町民学習課長：専門的な方をお願いする場合の予算はありますが、町内の方でスキルを持った潜在的な方もいらっしゃると思うので、声掛けをしてボランティアをお願いすることで考えています。

教育長：豊後高田は専門的なことを教える講師陣をそろえています。その他に、コミュニティスクールで学校支援ボランティアとして登録している制度がありますが、全くの無償で子どもたちの活動に支援をしてもらうことで登録している方がいます。その方たちは報酬を求めているわけではないと思うので、1～2時間協力してもらおうと思っています。4月当初いきなりスタートということではなくて、ある程度の設計をしてからのスタートになると思います。

町長：黒松内町は東京理科大学の生徒さんが来て教えてくれているようです。

教育長：大学生の報酬は送迎と晩御飯だそうです。

町長：長野県の小布施は慶応大学からバスが来るので、ゼミ生等の学生が来て交流して実際に移住した人もいて、地域の文化の教え合いをするので物凄い効果があります。地域おこし協力隊や集落支援員を活用している町もあって、今年も10名募集していますが枠はあるので、紹介していただければと思います。

大橋委員：高校に行ってSDGsの話をしている隊員の方がいると思いますが、SDGsを町民全体がみんなで理解することができるような機会

を増やしていけると良いと思います。

町長：いろんな方に理解してもらえる機会を増やすのは良いと思います。来年の町の大きな事業としては、SDGs 未来タウン構想が今動いていますし、一番大きいのは庁舎の建設が大きな事業になっています。他に、ニセコの森林を昨年から調査していて、ニセコの森は意外とありますが、ほとんど地元で木が使われていません。その木を地元で使ってビジネスが回る仕組みづくりをしたいということで動きます。中央倉庫群で一部やっていますが、地域通貨というのが連動しますが、地域でお金を回していく仕組みを考えようということでやっています。日本の社会で今何が問題かということ、将来を考えて貯金をしてしまうことです。今考えている地域通貨は、将来的には商工会がやっている綺羅ポイントと連動すると良いと思っていますが、1年～1年半経つと失効してしまうので円には交換できないというもので動かそうと考えています。同じようなことを海士町と飛騨高山でやっていて、将来的には拠点的などがネットワークを組んで、それがステイタスになると日本の社会は変わるかもしれないということで動いているものにもエネルギーを割いていくということも始まります。

教育に関しては教育委員会でいろんな改革をしてきたので、クレームが減りました。福祉の関係で頭を痛めているのは、家庭内暴力やネグレクトで、そういったところをどうやって児童相談所と連携していくかということで、件数は毎年増えつつあるように感じています。

子どもの格差解消をどのようにするかということで、その一つとしてユニセフと共同で昨年からいろいろな調査を始めましたが、今年もユニセフの中で5つの自治体が参加して検証をして、できるだけ早く格差解消の仕組みができないか、具体的に出ている児相の相談案件については、個別で対応しているのが実態です。

医療費を18歳まで完全無料化していますが、高校生で病院に行かせない家庭があつて、大きな疾患を持っていても薬を飲んでいなくて、本当に困った時に相談に来ることもあります。

高校の改革については、札幌新陽高校が荒井校長になってから生まれ変わっています。全体のインパクトとしては、荒井校長や海士町の改革に携わった方の話を聞くことも必要かもしれないので、予算要望があればお願いします。

4 閉会

片山町長：日本の社会において、すべて文科省の流れで本当に良いのかということで、教育長にフィンランドへ行っていただいて、フィンランドの教育でニセコで実践できることがあればやってほしいということでお願いして

います。オランダの教育も日本の社会の中で見直されていることがたくさんあって、すべて文科省のいうことをやれば良いという社会ではないと思います。SDGsはまさに多様性を認め合う社会をどう作るかというところなので、この美しい自然環境や景観の中で、子ども達が伸び伸びと暮らすにはどうしたら良いかというニセコならではの教育に、お知恵をいただきながら一緒に努力をして、子ども達の笑顔が広がるように、みんなで連携していきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

終了